



# 西条



～「星の里」でのふれあい餅つき大会を終えて～

2024-2025

No. 1  
571 月号

国際会長テーマ  
メッセージ  
336-A地区スローガン  
ガバナースローガン  
キーワード  
会長スローガン  
キーワード

「 WE SERVE 」  
「 足跡をしるす 」  
「 地球を守る、人を護る 」  
「 自信と誇りをもってウィサーブ 」  
「 躍進 」  
「 未来に向けて、新たな気持ちで We Serve 」  
「 安心 」



新年明けましておめでとうございます。

早いもので会長に就任させていただき半年が過ぎました、あっという間の半期で自分が掲げた公約を果せぬまま半期が過ぎたように思います。新たな気持ちで半期を頑張りたいと思います。どうぞ本年も皆様のご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

また来期はクラブ結成65周年の記念式典が行われます、それに向けての準備も進めて行かなければなりません。本年は忙し年になるかと思いますが、西条ライオンズクラブ丸となり65周年に向けて頑張らしましょう。

『星の里』ふれあい餅つき大会実施 2024.12.14(土)9:30～

アクティビティー

環境保全・保健福祉委員会委員長 村瀬文隆

我がクラブ、師走の恒例事業、今年も星の里の皆さんとの交流を楽しみました。メンバー以外にも、西条高校野球部員6名、伊予銀行からも7名の皆様にご協力をいただき、総勢 28名で餅つき奉仕を行いました。現役高校球児のパワーはすごく、殆どメンバーは杵を持つこともなく出番はありませんでした。曇り空で寒い中ではありましたが、雨は降らず何とか予定通りの餅をつくことができました。私自身、例年仕事のため参加できませんでしたので、今回初めての参加でした。星の里の入所者にも杵を持っていただいて実際についてもらいました。参加者それぞれが、入所者とコミュニケーションをとり、皆楽しそうにしており大変良い事業になったと思います。参加いただいた皆様に感謝申し上げます。また、餅つきマスターの高橋学し、岩間しなしでは成り立たない事業であったと思います。格好良かったです。今後ますますのご活躍をお祈り申し上げます。



## 年賀を迎えて



[ 年賀者 ]

卒寿(90歳)	加藤誠也	昭和11年 1月 9日 生まれ
傘寿(80歳)	村上公明	昭和21年 2月16日 生まれ
	花山志郎	昭和21年10月10日 生まれ



『 卒寿を迎えるにあたり 』

加藤誠也

卒寿(そつじゅ)とは、90歳を迎える長寿祝いのこと。

私の記憶が正しければ、2年前に米寿を皆様に祝っていただき今後の決意をクラブ会報誌に掲載いただきました。あっという間の2年、月日が経つのは本当に早く感じ

られます。お陰様で、まだまだ現役続行中…。在籍41年になる我がクラブ例会にも毎回出席ができ、楽しい仲間たちと休みながらではありますがゴルフができ、そして一番の健康法とも言える「せとうち広告」での仕事！毎日が変わりなく淡々と過ごせていることに改めて感謝する次第です。少々控えめになったことと言えば、夜の外出、酒量が控えめになったことでしょうか。まあ、これも年相応かと考えます。多くの皆様方に支えられ、今日を迎えられている私です。2年前に誓った言葉「目標は100歳を目指して生涯、現役！」の有言実行を叶えられるよう頑張ります。皆様とこれからもお付き合いいただき、私の気持ちが弱くなりそうな時には尻を叩いてやってください。



『 傘寿を迎えるにあたり 』

村上公明

感謝！

いつの間にか、生かされて80年。

いつの間にか、コロナにも感染せず80年。

いつの間にか、皆様にお世話になって80年。

自分の考えで、自由に人生を歩める幸せ。

1人の狂気の偽政者に支配される世の中になることのない幸せ(プーチン、習近平、トランプ、アサド、etc) 人生は早いものです。傘寿を迎え、生きている間に自分の出来る範囲で世の中に役立ちたい、恩返しをしたいです。



『 傘寿を迎えるにあたり 』

花山志郎

中国から伝わったと云われる「還暦」や「古稀」とは違い、「傘寿」や「喜寿」は日本発祥のお祝いだそうです。

さて、昭和21年生まれ私としては、人類の夢である太陽のような「永遠不滅のエネルギー」は何処かに無いだろうかと探していますが、中々見つかりません。

この頃「永遠不滅のエネルギー」は自分自身の中にあるように思えて来ました。

「想像の翼を広げたり」「楽しい事を考えたり」「喜んでくれる事を考えたり」と電池が切れかかっている私ですが、皆様に支えられて「永遠不滅のエネルギー」を燃やしたいものです。



## 氷見のあらまし

西条市の氷見（ひみ）地区は瀬戸内海の燧灘（ひうちなだ）の奥まった所に位置し、東は加茂川、西は中山川（なかやまがわ）の間であって、石鎚山麓の村々にも近く、それらに向かう登山道の道筋に古くから開けた土地であった。その集落の多くは、昔の海岸線だった鎮守社の石岡神社（いわおかじんじゃ）から、南の高尾神社あたりまでの高台の間に集中している。中でも、中心となる氷見の町屋は、石鎚登山道や金毘羅街道沿いにさまざまな商いの店が軒を連ねて、大正時代あたりまでは大勢の登山客で賑わっていた。山からの産物に恵まれ、米の収穫量も多く新兵衛港（しんべこう）を通じての交易も盛んで、伊予の中でも有数の豊かな土地だったと言われている。

たぶん江戸時代中頃（祭りが盛んになり始めた頃か）から、明治・大正・昭和の初め頃まで続いたであろう。その氷見の繁栄も、時代の変化には抗しがたく、大正12年の国鉄予讃線の開通と、近隣町村の港湾の利便性の影響を受けて衰退し、昭和に入るとこうした町屋も次第に寂（さび）れていったようである。とはいえ、氷見村の石高の大きさから、瓶ヶ森（かめがもり）の広い笹原が「氷見二千石原」と称されているように、その恵まれた土地柄は天保13年の『西條誌』にも3,045石と書かれ、領内では他に並ぶ村がなかった。石鎚の山村から運び出される楮や木材等の物産に加えて、往時の田畑の広さと収穫量の豊かさが知られるようである。

現在の氷見地区の範囲は、石岡神社の北側に江戸時代の新開地が拡張されているため、北は禎瑞（ていずい）に接し、南は黒瀬（くろせ）方面へ続き、東は西泉（にしずみ）・野々市（ののいち）・坂元（さかもと）とつながり、西は小松町と隣り合っている。

## 合併

この氷見地区が合併により旧西条市の一部になったのは、昭和16年4月29日のことであった。それまでの西条町に、飯岡村（いいおかむら）、神戸村（かんべむら）、橋村（たちばなむら）、氷見町が合併して、旧西条市が発足したのである。旧西条市発足前の氷見地区は新居郡（にいぐん）氷見町であり、氷見町に移行したのは明治41年のことである。それ以前は新居郡の氷見村であり、江戸時代を通してそうであった。ただし、古代から江戸時代初期までの氷見村の範囲は現在とは大きく異なり、今の橋地区や大保木（おおふき）地区を含めた地域のほぼ全体が氷見村であり、氷見村一村であったという。

天保13年上梓の『西條誌』の氷見村の頃には、次のように記されている。

當村、昔は前神寺の麓、旦と云処迄、皆氷見の一村にて有しが、正保二酉歲、（今を距こと二百年斗り）當村の内を分て、坂元・檜木とす、

同年には、西条藩主一柳氏（直興の時代）が檜木村（ならのきむら）の海辺を干拓して、そこに西泉村の田地が作られたことも記されている。ただ、坂元・檜木はこの時期（1645年）に氷見村から分離されたが、当初はまだ二村には分かれておらず、二村になったのは寛文元年（1661年）のことらしい。同じ寛文元年には旦（だん）も氷見村から西田分へ属し、その翌年には野々市（ののいち）も氷見村から西泉村へ分譲されたとの記録があるように書かれている。このように元の氷見村の範囲は広く、「（石岡神社の私記によると）氷見村は昔は橋村と称していた」と『西條誌』は記している。この往古の橋の村名は、明治22年に今の橋地区（禎瑞を含む）が継承して橋村となり、旧西条市から平成16年11月の2市2町合併による新西条市に移行した現在でも、「橋」の名称は、学校や公民館名、地区名等として残されている。

## 氷見の村名の由来

氷見という村名がいつごろ何から名づけられたのか正確なところは分からないが、地元の口碑や資料によると、いくつかの説が考えられているようである。

### ①漁火説

氷見は燧灘（ひうちなだ）に面した高台にあり、夜は漁火（いさりび）がよく見えた。そのため火見と称したが、「火」の字は火災につながるため、火見を転じて氷見とした。

### ②日美説

氷見は高台であったから、昔から日の出が早く、美しく見えた。それで日美と呼んだ、それが氷見になった。

## ③高山の北麓説(『西條誌』の説)

村名を氷見といふ訳は總て高山の北にある村里は、夏も雪の氷りたるが見ゆる故に、駿河の富士の北、越中の立山の北などにも、同じく氷見と称ふる村ありと聞く、石鎚山の北にあたる村少なからずといへ共、當村最も其麓にて、石鎚權現の別當前神寺も當村の内に属し、且村高の大ひなる、近郷に類ひなきのみならず、伊豫一國の村寄せの内にて、其畝高の多く廣き、當村にしくものなし、因て麓の諸村の内、氷見の名を許すべきは、外にはあらじ

## ④烽火説(明比貢氏の説)

烽火はのろし。天智2年(663年)百濟の白村江の戦いで大敗を喫した倭(やまと)王権は、敵国來襲の危機感を抱き、西日本の各地に防備のための種々の方策を講じた。その一つに、40里海に烽火を設置し、そのリレーにより、いち早く都に變事を伝える烽(とぶひ)の仕組を作った。烽火の多くは瀬戸内の島伝いに行われたが、その煙や炎を望見して緊急事態に即応するための「火の見」が氷見にも置かれた。氷見は元「火の見」であった。また、燧灘の語源は、この「烽燧(ほうずい)」から起こったとする。(以上は要旨で、元文は『新居浜誌』や『西條の歴史探訪』に詳しい。)

## ⑤干海説

この説は文献資料にはあまり見かけないが、氷見高尾神社の案内板に「拝殿内に森義正氏が残した額より」として紹介されている。

氷見は高地で、山際で薪にも不自由せず、治水に恵まれ、往古より生活が楽であった。入江で干潟が多いので「干海(ひみ)」と唱えるものがあつた。

## ⑥卑弥呼説

氷見の地名は「卑弥呼」から起こったとする。(邪馬台国は氷見ではないか。卑弥呼が住んでいたから氷見の地名が生まれた。)

だいたい以上のようなのであるが、⑥については詳しい理由も示されておらず、これだけを聞くと、単なる語呂合わせか荒唐無稽な説のようにも聞こえるが、たぶん、以下の理由によるものではないかと考えられる。

- 1) 郡郷制の時代に、氷見村は神野郡(かんののこおり、かんのぐん)の橘郷(立花郷)に属し、石岡台地はその橘郷の中心地だったといわれている。周辺には忍塚(しのぶづか)・西大塚(にしおおつか)・東大塚(ひがしおおつか)・梅の木・祭ヶ岡と、この地の郡郷制以前の豪族のものと考えられる古墳が集中しており、そのことから、この石岡台地が古くから当地の中心地であつたらしいことが理解される。
- 2) 氷見の石岡神社の奥には、神功皇后が武内宿禰らと三韓からの帰途に立ち寄り、天神地祇を祭った祭ヶ岡(まつりがおか)の伝承地があり、神功皇后の座像も設置されている。また、石岡台地は往古には橘の島と呼ばれていたとの言い伝えがあり、万葉集巻七[1315]の「橘の島にし居れば河遠み曝さず縫ひしわが下衣」の一首は、当地で詠まれたものとも言われている。『西條誌』の石岡八幡宮の頃にも地元の伝承としてこれらの歌が紹介されていて、仙覚の『萬葉集註釈』の『伊豫国風土記』逸文には、この歌は「神功皇后の御製なり」とある。
- 3) 『日本書紀』の「神功紀」には、氣長足姫尊のところの『魏志倭人伝』の卑弥呼の記事が付されていて、神功皇后を卑弥呼と誤解させるような内容になっている。そのため昔は、女王卑弥呼は神功皇后のことだと、一般に信じられていた一時期もあつたようである。

こうした神功皇后と氷見との関係から、氷見の村名は卑弥呼から起こったとする⑥説が生じたのではあるまいか。ただし、その場合の氷見説は、神功皇后が卑弥呼と間違われた結果であつて、上記の卑弥呼説も、たぶん実際の邪馬台国女王の卑弥呼とは無関係だろうと思われる。もちろん、邪馬台国が氷見でないことは言うまでもない。

(参考文献)主として「西条歴史発掘～氷見の歴史～」より掲載



## 西条ライオンズクラブ 会員募集中!

### ◎ライオンズクラブとは

世界最大の社会奉仕団体のことです。世界で約 200 以上の国または領域にあり 49,000 を超えるクラブが存在し、130 万人以上の会員がいます。あなたも世界の一員になりませんか。

### ◎西条ライオンズクラブは

国内で 334 番目、愛媛県下では 9 番目のクラブとして結成されました。「We Serve～我々は奉仕する～」を合言葉におなじ志をもつ仲間同士が集まって奉仕活動を行っています。

人の為に、社会の為に、一人ではできないことを、出会いを通して集まった会員が力を合わせて、それぞれの地域において社会奉仕に貢献しているという団体です。

西条ライオンズクラブ[56-3980]までお気軽に  
お問合せください。

### [ ライオンズクラブ活動ご紹介 ]



## 編集後記



明けましておめでとう御座います。今年は巳年です。十二支で6番目で蛇を表します。昔から豊穡や金運を司る神様として祀られることもあり、神聖な生き物とされてきました。たくましい生命力があり、脱皮をするたびに表面の傷が治癒していくことから、医療、治療、再生のシンボルともされています。また運氣を上げ縁起物として定番となっており、蛇の抜け殻を財布に入れておくと金運があがるとも言われています。巳年生まれの方は辛抱強く、粘り強い性格を持つとされ、知恵や洞察力に優れているとも言われています。巳年生まれの人に肖り金運アップの年になると良いですね。

MC・広報委員 寺川治美



第107回国際大会開催地 フロリダ州オーランド

期間:2025年7月13日(日)～7月17日(木)

フロリダ州オーランドが、太陽の光をいっぱい浴び、楽しみ、奉仕し、第107回ライオンズ国際大会に参加する世界中からのライオンズとレオを迎えます。テーマパーク、エキサイティングなアトラクション、パケーションの雰囲気でも有名なオーランド地域は、世界有数の旅行先であり、年度最大のイベントが開催されるエキサイティングな場所でもあります。ピュア・マジックの街で、そのすべてを満喫しましょう!

[ 国際理事だより ライオン誌 2024・秋号 ]

国際理事 濱野雅司



皆さんはライオンズの活動を楽しんでいますか?例会が待ち遠しいですか?

奉仕活動に喜びを感じ、積極的に取り組んでいますか?

国際協会では、クラブ活性化、会員増強、指導力育成など、クラブのために多くのプログラムを用意しています。これらを活用し、ぜひ、メンバーが「入っていて良かった」と感じる、活力あるクラブ作りを目指して下さい。そうすれば、新しい仲間を誘いやすくなります。会員候補は、セレモニーが重視される例会の前に、奉仕事業に招いてください。私たちのモットーは「奉仕」です。地域で求められる奉仕活動に参加してもらえば、ライオンズへの理解が深まり、ボランティア活動への参加に進んで賛同してくれるでしょう。

発行者 会長 瀬川寛清 (表紙題字「西条」筆)  
幹事 越智美和  
[MC・広報委員会]  
委員長/副委員長 寺川治美/盛實正人  
編集委員 越智英明・村上公明・山本周司・森下雄一  
例会日 毎月 第1・第3火曜日 (12:30~13:30)  
例会場 西条商工会館  
発行 西条ライオンズクラブ事務局  
印刷 プリントワールド ONO

## 西条ライオンズクラブ

〒793-0027 愛媛県西条市朔日市779-8  
西条商工会館1F  
TEL(0897)56-3980  
FAX(0897)56-9251  
E-mail saijo-ic@abeam.ocn.ne.jp  
ホームページ http://saijo-lions.jp  
facebook http://facebook.com/saijo.lions/